



2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月14日

上場会社名 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 上場取引所 東
 コード番号 7829 URL <https://www.samantha.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 門田 剛
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 永井 利博 TEL 03(6400)5524
 四半期報告書提出予定日 2022年1月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第3四半期の連結業績（2021年3月1日～2021年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	17,835	23.6	△2,443	—	△2,217	—	△2,931	—
2021年2月期第3四半期	14,427	△16.1	△2,963	—	△3,029	—	△9,330	—

(注) 包括利益 2022年2月期第3四半期 △2,990百万円 (—%) 2021年2月期第3四半期 △9,142百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	△44.52	—
2021年2月期第3四半期	△186.34	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第3四半期	22,644	3,802	15.5
2021年2月期	24,067	6,792	27.3

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 3,511百万円 2021年2月期 6,567百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年2月期	—	0.00	—	—	—
2022年2月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年2月期の連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,857	23.3	△1,992	—	△1,857	—	△2,751	—	△41.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動：無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年2月期3Q	65,851,417株	2021年2月期	65,851,417株
② 期末自己株式数	2022年2月期3Q	214株	2021年2月期	214株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年2月期3Q	65,851,203株	2021年2月期3Q	50,073,652株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等に関するご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する主旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
3. その他	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う4回目の緊急事態宣言解除後はワクチン接種も進み、徐々に経済活動が回復しているものの、新たな新型コロナ変異株の発見による感染再拡大の懸念もあり、景気の先行きは依然不透明な状況で推移しております。

当社グループが属するファッション・アパレル業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う4回目の緊急事態宣言発令後、新規感染者数の減少で減収幅が小さくなったもののインバウンド客数の減少、外出自粛による消費低迷や購買志向の変化等により厳しい経営環境となっております。

このような状況下、当社グループは全国の店舗におきまして、お客様と従業員の健康と安全を最優先に考え、感染防止の取り組みを実施した上で営業を続けてまいりました。

基幹ブランドであるサマンサタバサからはSDGsへの取り組みとして、エシカルなファッションを提案する新ライン「Samantha Green by Samantha Thavasa」を、9月に有楽町マルイ、10月にジェイアール名古屋タカシマヤにて期間限定のPOP UP SHOPを開催いたしました。通常の店舗におきましては認知度、訴求力の高いインフルエンサーやキャラクターのコラボ企画商品をECと連動して展開し、売り上げの回復を図ってまいりました。また、社会環境が大きく変化した今、お客様のライフスタイルやそれに伴うニーズに対応すべく、顧客接点の拡大を図る為に、インスタグラムLIVE配信など各種SNSを用いた商品情報の発信力強化も進めております。一方で仕入れの抑制や在庫販売の強化、広告宣伝費、販売促進費などの経費削減にも努めてまいりました。

店舗展開につきまして、バッグ事業においては「&Chouette（アンドシュエット）」を西銀座デパートに出店し、1店舗の退店となりました。

ジュエリー事業は「Samantha Tiara（サマンサティアラ）」を西武池袋本店、阪神梅田本店に出店し、1店舗の退店となりました。

アパレル事業においては「REDYAZEL（レディアゼル）」をルミネ北千住店に出店し、1店舗の退店となりました。

海外においては5店舗の退店となりました。

サマンサタバサグループ合計で前年度末比16店舗純減し、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は293店舗となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は178億35百万円（前年度比23.6%増）、営業損失は24億43百万円（前年度は29億63百万円の損失）、経常損失は22億17百万円（前年度は30億29百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失29億31百万円（前年度は93億30百万円の損失）となりました。なお、当社グループは「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を行っておりません。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は226億44百万円であり、前連結会計年度末と比較して14億23百万円減少しております。主な要因は、商品及び製品が4億57百万円増加した一方、現金及び預金が5億49百万円、有形固定資産が6億96百万円、無形固定資産が1億64百万円、投資その他の資産が4億21百万円減少したことなどによるものであります。

総負債は188億41百万円であり、前連結会計年度末と比較して15億66百万円増加しております。主な要因は、支払手形及び買掛金が4億52百万円、短期借入金金が11億76百万円増加したことなどによるものであります。

純資産は38億2百万円であり、前連結会計年度末と比較して29億90百万円減少しております。主な要因は、利益剰余金が29億31百万円減少したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期通期の業績予想につきましては、2021年10月15日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,491	1,942
受取手形及び売掛金	1,474	1,485
商品及び製品	8,246	8,703
仕掛品	1	0
原材料及び貯蔵品	110	92
その他	439	396
貸倒引当金	△2	△0
流動資産合計	12,761	12,620
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,813	3,610
その他	2,926	2,433
有形固定資産合計	6,740	6,044
無形固定資産		
その他	1,754	1,590
無形固定資産合計	1,754	1,590
投資その他の資産		
差入保証金	2,005	1,933
その他	805	455
投資その他の資産合計	2,810	2,389
固定資産合計	11,306	10,023
資産合計	24,067	22,644
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,085	1,537
短期借入金	2,739	3,915
1年内返済予定の長期借入金	400	400
未払法人税等	239	80
賞与引当金	238	272
その他	2,629	1,725
流動負債合計	7,332	7,932
固定負債		
長期借入金	9,028	10,034
ポイント引当金	232	247
その他	682	627
固定負債合計	9,943	10,909
負債合計	17,275	18,841

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,132	2,132
資本剰余金	7,921	7,921
利益剰余金	△3,594	△6,526
自己株式	△0	△0
株主資本合計	6,459	3,527
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	45	18
為替換算調整勘定	63	△34
その他の包括利益累計額合計	108	△15
非支配株主持分	224	290
純資産合計	6,792	3,802
負債純資産合計	24,067	22,644

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
売上高	14,427	17,835
売上原価	6,311	8,420
売上総利益	8,115	9,415
販売費及び一般管理費	11,079	11,859
営業損失(△)	△2,963	△2,443
営業外収益		
受取利息	3	4
受取配当金	0	5
為替差益	—	107
不動産賃貸料	41	87
補助金収入	236	141
その他	28	46
営業外収益合計	310	393
営業外費用		
支払利息	41	101
シンジケートローン手数料	257	5
為替差損	54	—
その他	23	59
営業外費用合計	376	166
経常損失(△)	△3,029	△2,217
特別利益		
固定資産売却益	5	—
投資有価証券売却益	—	70
その他	2	—
特別利益合計	7	70
特別損失		
固定資産除却損	80	7
減損損失	6,183	662
その他	—	14
特別損失合計	6,263	683
税金等調整前四半期純損失(△)	△9,285	△2,830
法人税、住民税及び事業税	53	67
法人税等調整額	△15	△29
法人税等合計	38	37
四半期純損失(△)	△9,323	△2,867
非支配株主に帰属する四半期純利益	7	64
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△9,330	△2,931

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純損失(△)	△9,323	△2,867
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33	△26
為替換算調整勘定	147	△96
その他の包括利益合計	180	△123
四半期包括利益	△9,142	△2,990
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△9,158	△3,056
非支配株主に係る四半期包括利益	15	65

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書)

前第3四半期連結累計期間において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「不動産賃貸料」は、金額的重要性が増したため、第1四半期会計期間より区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の連結財務諸表の組換えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた70百万円は、「不動産賃貸料」41百万円、「その他」28百万円として組み替えております。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響)

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが属するファッション・アパレル業界におきましては、緊急事態宣言等の解除により当面の需要回復は期待されるものの、消費マインド低下や外出自粛等の影響は継続するものと思われませんが、当第4四半期には感染者数の減少やワクチン接種率の増加等により一定の落ち着きを見せ経済活動も徐々に回復していくという一定の仮定を置いて最善の見積もりを行っております。

(財務制限条項)

短期借入金のうち2,791百万円、1年内返済予定の長期借入金400百万円、長期借入金のうち7,924百万円(2020年10月27日付シンジケートローン契約)には下記の財務制限条項が付されております。

- ①2022年2月期末日及びそれ以降の各事業年度末日において、連結及び単体の貸借対照表に記載される純資産金額を、2021年2月期末日における連結及び単体の貸借対照表に記載される純資産金額の75%に相当する金額、又は直近の事業年度末日における連結及び単体の貸借対照表に記載される純資産金額の75%に相当する金額のうち、いずれか高いほうの金額以上に維持すること。
- ②2021年2月期末日及びそれ以降の各事業年度末日における連結及び単体の損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと。
- ③株式会社コナカの連結子会社であることを維持すること。
- ④全貸付人及びエージェントの事前承諾なく、株式会社コナカを債権者とする2020年10月15日付の8億円の借入金の弁済を行わないこと。

(セグメント情報等)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは当第3四半期連結累計期間に24億43百万円の営業損失を計上し、前々連結会計年度から継続して営業損失を計上しております。

このような状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該事象又は状況を解消するための対応策として、2020年7月21日付けで株式会社フィットハウスと合併し、財務基盤が強化されるとともに、株式会社コナカの連結子会社になることにより、同社より2020年10月15日に8億円の長期借入を行うとともに、取引金融機関とは既往債務に約18億円を追加したリファイナンスを2020年10月30日に実施いたしました。更に2021年11月30日に株式会社コナカより13億円の長期借入を実施いたしました。これらの借入により、経営に支障をきたさない十分な資金を調達し、経営基盤の強化に取り組んでおります。

これにより、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。